

令和5年度

全国学力・学習状況調査報告
(結果)

<小学校>

<中学校>

佐久市教育委員会

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和5（2023）年 10月2日

佐久市教育委員会

1 調査の概要

- (1) 調査日 令和5年 4月18日（火）
- (2) 調査対象 小学校6年生、中学校3年生、学校
- (3) 調査内容
 - ①児童生徒に対する調査（小学校6年・中学校3年）
 - ・教科に関する調査：国語、算数(数学)、英語（中学校のみ）
 - ・学習意欲、学習環境等に関する調査（児童・生徒質問紙）
 - ②学校に対する調査（学校質問紙）

2 教科に関する調査

(1) 平均正答率

小学校	国語	全国と比べ、「ほぼ同じ」
	算数	「ほぼ同じ」
中学校	国語	「やや下回る」
	数学	「ほぼ同じ」
	英語	「下回る」 （*話すこと[やりとり][発表]は含まない）

(2) 各教科の状況 [①正答分布状況・無答率 ②領域や観点から ③設問に対する状況・課題等]

【小学校】

国語	①	全14問中0～7問正答の児童の割合が低く、8～12問正答の児童の割合が高い。無答率は全国を下回り、粘り強い取り組みがうかがえる。
	②	領域では「書くこと」を除き、全国をやや上回る。また、観点別では「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とも全国と比べてやや上回る。
	③	全国と比較して短答式・記述式解答の正答率は高く、無答率は低い。全問中で最も低い正答率（全国：26.7%）となった「書くこと」の正答率は、昨年度とは逆に全国よりやや下回った。
算数	①	全16問中0～3問正答及び15～16問の正答の児童の割合が低く、11問前後正答する児童の割合が多い。無答率は全国を下回った。いずれも昨年度と同様の傾向がみられる。
	②	領域別では「図形」は全国と比べてやや上回るが、「変化と関係」「データの活用」でやや下回る。観点別では「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とも全国とほぼ同等である。
	③	記述式解答の正答率は他の解答形式を上回っている。基礎的な「知識・技能」に関わる選択式での正答率がやや下回った。全16問中、15問以上正答する児童の割合の低さは課題となる。

【中学校】

国 語	①	全 15 問中 0～10 問正答の生徒の割合が全国を上回り、11～16 問正答の生徒の割合は低い。ことに 12～14 問正答する生徒の割合の少なさが目立つ。無答率は全国より上回った。
	②	領域では「知識・技能」にかかわる「情報の扱い方に関する事項」、「思考力・判断力・表現力」にかかわる「読むこと」が全国と比べ下回った。「話す・聞くこと」は昨年度と比較すると改善傾向がみられる。
	③	記述形式で「思考力・判断力・表現力」に関わる問いの正答率が全国を下回る傾向にあり、無答率が全国と比較して高いことは昨年度と同様の傾向である。設問の意図を読み取り、粘り強く考えたり書いたりする学習を日常的に大事にしたい。
数 学	①	全 15 問中 3～11 問正答の生徒の割合の間に 3つの集団の分布がみられ、昨年度同様の傾向である。2～3 問正答の生徒の割合が全国より高く、一方で無答率は全国を上回った。
	②	箱ひげ図を扱った「データの活用」領域では、思考力・判断力に関わる正答率が全国を大きく上回った。「図形」で平面の基礎的知識（定義）や証明が、全国との比較で下回った。
	③	「図形」領域の証明は昨年度と同様に課題ではあるが、正答率及び無答率の全国との開きは昨年度より縮まってきた。各領域で筋道を立てて数学的な表現を用いて説明することに共通した課題がみられた。
英 語	①	全国と比較すると、正答数の分布が全体的に下方にずれている。全 17 問中 3～6 問正答の生徒の割合の高さ、12～17 問正答の生徒の割合の低さが目立つ。無答率は全国を上回る。
	②	領域では全国と比較し「聞くこと」がやや下回り、「読むこと」「書くこと」は下回っている。観点では「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」ともに下回り、課題である。
	③	記述式の正答率は全国としても低い（7.4%）が、短答式・記述式正答率及び無答率の全国との開きが大きい。前回調査（2019 年度）より全国比較平均正答率がさらに（3 ポイント）低下した。日常の授業の見直しと改善が求められる。

3 学習状況等に関する調査（小学校6年児童及び中学校3年生徒への質問紙調査 抜粋）

(1) 「自分にはよいところがあると思いますか」「将来の夢や希望は持っていますか」

両質問に対して、小学校では「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答する児童はともに80%を超える。中学校では、「よいところがある」と回答する生徒79%に対して、「将来の夢や目標を持っている」生徒は65.5%とやや下がる。昨年度と同様の傾向である。

(2) 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」

肯定的回答は、小学校では「よくある」51.1%、「ときどきある」41.3%となり、中学校では「よくある」42.0%、「ときどきある」44.1%となり、いずれも全国と比較して若干高い。「あまりない」「全くない」と回答した児童生徒（小学校7.3%、中学校11.7%）については日頃より学校・担任で把握に努め、丁寧に支援を進めたい。

(3) 「授業時間以外に、平日1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」「自宅で自ら計画的に勉強していますか」

小学校では「1時間以上、2時間より少ない」児童が最多で33.5%（昨年度36.7%）、次いで「30分以上、1時間より少ない」31.3%（32.0%）だった。中学校では「1時間以上、2時間より少ない」生徒が最多で37.5%（44.2%）、次いで「30分以上、1時間より少ない」22.9%（20.6%）、「2時間以上、3時間より少ない」20.3%（22.6%）と続いた。自宅での計画的な勉強については、「よくしている」「ときどきしている」は小学校73.4%、中学校69.6%と、ともに全国を若干上回る。

(4) 「読書は好きですか」「授業以外で普段、平日1日当たりどれくらい読書をしますか」

「読書は好きか」という質問には小学校80.1%、中学校72.7%が肯定的に回答している。読書時間は、小学校では「10分より少ない」13.1(58%)、「全くしない」23.9(18%)と読書離れが心配される。中学校では「10分より少ない」12.8(13.4%)、「全くしていない」28.7(30.4%)となる。

(5) 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」

肯定的回答は、小学校80.6%、中学校48.1%とともに全国を大きく上回る。地域とのかかわりを大事にしている様子がわかる。また、「地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思いますか」の質問に、小学校では81.1%、中学校では68.1%が肯定的に回答している。

(6) 「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか」

肯定的回答は、小学校72.5%、中学校66.7%であった。また、「日本やあなたの住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたい」と肯定的に考える児童生徒は、小学校81.7%、中学校64.5%だった。また、「英語の勉強が好きか」「大切だと思うか」に対して肯定的回答は、小中学校ともに全国を若干上回っている。外国の人や文化への関心は高いと思われる。

(7) 「5年生（中学校2年生）までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」

「ほぼ毎日使う」と回答した児童生徒は、小学校では20.0%（昨年度25.3%）、中学校では9.2%（昨年度5.5%）で、中学校で使用頻度が高くなってきた。「佐久市教育振興基本計画」に明記されたICT機器活用の令和8年度目標は既に上回っている。しかし、全国の数値と比較すると、小学校（28.2%）、中学校（28.1%）ともに本市の使用頻度はまだ低いことが分かる。

(8) 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」

肯定的回答は、小学校70.6%（昨年度67.9%）、中学校70.1%（昨年度62.3%）であり、昨年度より児童生徒を主体とした学習が進んでいる。内容や活動の充実を図り、探究的な学習を深めたい。

4 改善の方向

各校、学力にかかわる課題は異なるので、ここでは今回の調査問題や調査項目にみられる市全体の傾向から改善の方向を記す。各校においては、昨年度実施している CRT 検査からの考察と重ね合わせ、自校や児童生徒にみられる課題を明確にしたい。

く ①今回の設問にかかわって ②③教科指導全体にかかわって 〉

- (1) 【国語】 小学校、中学校とも知識・技能面と思考力・判断力・表現力との差異は少ない。複数の情報を整理して条件にそって自分の考えが伝わるように書いたり（小学校）、読み手の立場に立って叙述の仕方などを確かめて文章を整えたり（中学校）する「書くこと」や、観点を明確にして文章を比較したり文章の構成や展開について考えたりして「読むこと」（中学校）に課題が見られた。そこで、
- ① 「書くこと」については、目的や意図に応じて伝えたいことを明確にしたり情報と情報との関係を整理したりするなどして自分の考えが伝わる書き表し方を工夫させていきたい。また、自分の考えを支える根拠として示す事例等を検討し、考えと事例等との関係の記述が明確になっているかといった見返しも大切にしたい。「読むこと」では二つの文章を同一の観点で比較して特徴や工夫を見だし、その効果を考え合ったりするなどの学習活動が考えられる。
 - ② 説明的な文章や文学的な文章などの文章の種類を調和的に取り扱う。その際に、文章全体の構成や展開、事例の示し方、文末の表現、登場人物・心情の変化などについて、自分なりに考えをまとめたり友だちと意見を交換し合ったりして、叙述に基づいて考え深め合う学習を日常的に大事にしたい。
 - ③ 読解力は国語に限らず全ての教科において基盤となる。子どもたちが日常的に図書、活字に親しむとともに、辞書の活用などを通して語彙を豊かにしたり読んだ文章の要約などを意図的に取り入れたりして読解力を高めたい。
- (2) 【算数・数学】 小学校、中学校とも全国と比べてほぼ同等であるが、「割合」の概念、データ活用に関わる「以上」の言葉の理解（小）や平面の定義（中）など基礎的な知識・理解に不十分さがみられた。また、「変化と関係」で比例の関係をを用いて数量の求め方を記述したり（小）、「数と式」「図形」で事柄の成り立ちを論理的に考えたり証明したりする（中）ことに課題が見られた。そこで、
- ① 「割合」の理解を苦手とする児童が多く見られる。百分率で示された基準量とそれに対する比較量との関係を、具体的に丁寧に取り扱い確実に理解を図ることが大切になる。（小学校）空間における平面では、身の回りにある事象から平面が一つに決まる条件を見い出すなど、実感を伴った理解を大事にしたい。また、図形の証明にあたっては、与えられた条件から結論を導く過程を考えるとといった構想を立てる活動を取り入れることも考えられる。（中学校）
 - ② 取り扱う内容や問題などを日常生活にみられる数学的な事象と関わらせて教材化を図り、問題解決の方法を表、式、グラフなどを用いて数学的に説明したり表現したりする活動の充実を図りたい。その際、友だちと見通しや前提、根拠について吟味し合うなどして、筋道を立てて論理的に考察し表現することを大事にしたい。
 - ③ 「知識・技能」では、単に知識として扱うのではなく、身近な事象と関わらせ観察や操作、実験などの活動を通して実感的に習得させる。そのことが「思考力・判断力・表現力」の育成につながる。

(3) 【英 語】 全ての領域において全国を下回る結果となった。特に、文章を読んで概要を捉えたり、相手に伝える内容をまとまりのある文章で書いたりする問題において落ち込みが激しい。今後の授業及び評価の在り方を見直す必要がある。そこで、

- ① 知識・技能の学習に偏らず、コミュニケーション活動を通して英語を使いながら語彙や文法事項の定着を図るような学習活動を徹底する。そして、聞いたり読んだりして得た情報を基に自分の考えをまとまりのある文章で話したり書いたりする経験を積み上げていきたい。
- ② 「読むこと」の活動においては、細かい点に拘るのではなく、必要な情報を得たり概要を捉えたりすることに集中して読み進めるようにする。その際、分からない単語や文があっても前後関係や挿絵から意味を類推していく力を育てたい。
- ③ 学習のねらいに沿った評価とすることが必要である。定期テストが文法や語彙に関わる設問に終始せず、概要や要点を捉える力を測る設問になっているか、「話すこと」の評価としてパフォーマンステストの評価内容と評価基準が適切かどうか等について再検討する。

(3) 【教科学習、学校生活全体として】

- ① 子どもが安心して自分らしさを発揮しながら学びを進めるために、日頃より自分の思いや考えを語り合ったり多様な意見を認め合ったりする人間関係、学級集団づくりに努めたい。
- ② 個に応じた指導を図ったり探究的な学習を進めたりするなど、多様な子ども一人一人の主体的な学びを支え育む実践を重ねたい。また、その際に、自分の考えを文章にして書き表したり伝え合ったりする場面を日常的に位置付け、思考・判断したり表現したりする力の育成を図る。
- ③ 全国的に ICT 機器活用の進展が著しく、学習活動における多様な活用が進みつつある。個別最適な学び、協働的な学びを促す視点からも、引き続き ICT 機器を活用した授業実践に努める。
- ④ 子どもに向き合う教師の意識や教材研究の深さが子どもの考えを柔軟に受け入れ、子どもの主体的な活動を促し、学びの質を高める。子ども理解、素材研究、教材化の研究など教師自身の主体的研修とともに、日常的に学び合う教師集団づくりに努めたい。
- ⑤ 家庭との連携を図りながら、子どもたちを取り巻くメディア機器との関りも含めて規則正しい生活習慣の確立や家庭学習・読書の習慣化などに努める。

(4) 今後の学力向上・授業改善に向けて

- ① 各校では、研究主任等を中心に分析結果をもとに教職員と情報共有を深め、自校の課題解決に向けた取組を明確にする。
- ② 校長会で、自校の実践例や案を持ち寄り、学力向上・授業改善の具体を協議する。
- ③ 中学校区教育推進委員会を通じた小中及び小学校間の連携、中学校研究主任会（令和4年度～）を通じた中学校間の連携を図り、学習指導にかかわる情報交換、授業改善を進める。
- ④ 「英語」については、パイロット校研究（令和5年度～）及び佐久市英語教育推進委員会の設置（令和6年度）をもとに、学力向上や支援体制を整える。
- ⑤ 各校の分析と今後の取組について、学校だよりなどを通して保護者に伝えるとともに理解と協力を得る。